

令和5年度 京都市ふるさと納税寄付金充当事業報告書

京都市ふるさと納税寄付金に御寄付を賜り、心より御礼申し上げます。

皆様から頂戴いたしました寄付金を活用させていただき、下記の事業に取り組んでおりますことを御報告申し上げます。

京都市では福祉・教育・子育て支援などの基礎自治体としての役割に加え、日本が世界に誇る優れた景観や歴史的資産・文化を守り、育て、次世代に伝えていくため、様々な取組を進めています。

皆様からご支援頂きました貴重な「ふるさと納税」寄付金は、これらの取組に大事に活用させて頂いております。

今後とも変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年12月吉日

京都市長 松井孝治

令和5年度の主な活用事業

子育て・すこやか・動物愛護のまちづくり

子ども医療費支給事業

R5事業費：3,229百万円（うちふるさと納税充当額：51百万円）

子育て家庭の経済的な負担を軽減し、安心して子育てができるようにするため、中学3年生までの児童の医療費（健康保険の自己負担額）の一部を京都市が支給する制度です。

令和5年9月診療分から、受給者のうち3歳～小学6年生の自己負担額を大幅に引き下げる制度拡充を行った際の費用にふるさと納税寄附金を充当し、子育て家庭へのさらなる負担軽減に寄与しました。

○ 京都市子ども医療費支給制度（令和5年9月診療分以降）

	就学前		小学生	中学生
	0～2歳	3～6歳		
入院	1医療機関 200円/月			
通院	1医療機関 200円/月	1,500円/月		1,500円/月
		↓ [拡充] 1医療機関 200円/月		

学校コンピューター環境整備

R5事業費：1,192百万円(うちふるさと納税充当額：637百万円)

京都市立学校園のICT環境及びネットワーク通信環境の整備を実施しました。具体的には、ICT機器整備や学習用ネットワーク通信にかかる経常的な費用のほか、特別教室への電子黒板の導入等によるICT環境の充実を図りました。



学校園のICT環境の充実（左）と特別教室への電子黒板の導入（右）

京都動物愛護センター運営

R5事業費：36百万円(うちふるさと納税充当額：16百万円)

京都府とともに制定した「京都動物愛護憲章」の理念のもと、「人と動物が共生できるうるおいのある豊かな社会」の実現に向けた取組を進めています。

寄付金を活用し、「京都動物愛護センター（愛称：動物愛ランド・京都）」を拠点とした収容動物の譲渡、動物愛護教育、まちなこ活動支援、ペットの災害対策などの動物愛護事業に取り組むとともに、動物愛護週間の啓発イベントを通じて動物愛護思想の啓発に努めています。

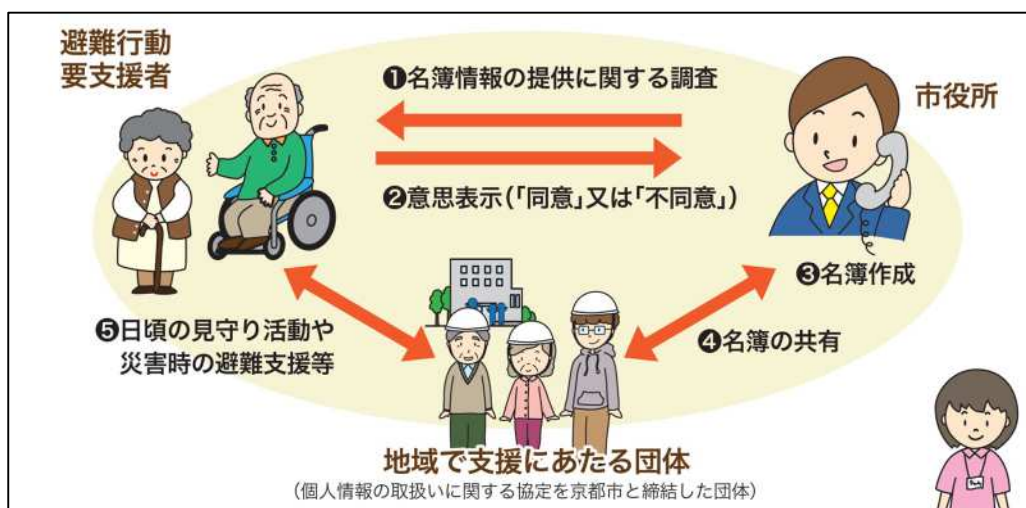


京都市避難行動要支援名簿の更なる活用

R5事業費：16百万円（うちふるさと納税充当額：12百万円）

災害時の避難支援に特に支援を要する方（＝避難行動要支援者）に対する避難支援対策の取組を進めています。

共助による避難支援体制を構築するため、寄付金を充当して作成した避難行動要支援者名簿は、大規模災害発生時に避難行動要支援者の安否確認等に活用します。また、個人情報の提供に不同意の方を除いて、平常時から地域団体等に提供し、いざという時の避難支援に繋がる顔の見える関係づくりを促進しています。



伝統・文化の継承や産業・観光の振興など活力あふれるまちづくり

市指定文化財等助成事業

R5事業費：63百万円（うちふるさと納税充当額：19百万円）

京都市に存在する3千を超える文化遺産は、日本が世界に誇る宝であり、文化、経済をはじめ、京都を支える基盤となっています。これらは、国民や市民のかけがえのない共有財産として適切な保存を図るとともに、次世代に確実に継承する必要があります。

その取組の一つとして、京都市文化財保護条例等に基づき指定・登録された文化財について、その所有者が実施する維持管理や修理等に対する支援を行いました。

【文化財の修理事例：大原野神社】



整備前



整備後

京都芸大移転整備事業

R5事業費：11,869百万円（うちふるさと納税充当額：214百万円）

京都の都市格と魅力向上を図り、千年の都・京都に息づく文化を世界に発信するまちづくり、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーン創出の核となる、京都市立芸術大学の京都駅東部エリアへの移転整備事業に取り組みました。

令和3年4月から進めてきた新キャンパスの建築工事を令和5年8月末に完了し、10月に移転開校しました。



京都市立芸術大学北東側からの鳥瞰

京の「匠」ふれあい事業

R5事業費：18百万円（うちふるさと納税充当額：18百万円）

市民、観光客等への伝統産業のPRなどを目的に、小・中学校に職人を派遣し、その卓越した技術を活かした制作実習、制作実演等を実施するとともに、京都伝統産業ミュージアム等においても、職人による制作体験教室、制作実演等を実施しました。



中学生による京くみひも制作体験

ライフイノベーション創出支援事業

R5事業費：59百万円（うちふるさと納税充当額：22百万円）

公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団による iPS 細胞の実用化促進や、市内中小企業、大学研究者が取り組むライフサイエンス分野における研究開発を支援するため、「ふるさと納税型クラウドファンディング」を実施し、御支援いただいた寄付金を「公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団への寄付」及び「企業や大学研究者による再生医療をはじめとした研究開発への助成事業」に活用しました。



iPS 財団で製造された iPS 細胞

京都マラソン

R5事業費：145百万円（うちふるさと納税充当額：133百万円）

市民スポーツの振興、「健康長寿のまち・京都」の推進、また、地域の活性化や京都ブランド向上のため、平成23年度から市内を走るフルマラソン大会として京都マラソンを実施しています。令和5年度はランナー約1.6万人、ボランティア約7千人、沿道応援者約39万人に参加していただきました。



球技場等運動施設整備事業

R5事業費：365百万円（うちふるさと納税充当額：146百万円）

サッカーやラグビーなどで多くの市民の皆様にご利用いただいている「宝が池公園運動施設球技場」の改修に取り組んでいます。令和5年度は、メインスタンドの外壁改修、観客席の個席化等を実施しました。

【宝が池公園運動施設球技場 外観】



改修前



改修後

【宝が池公園運動施設球技場 観客席】



改修前



改修後

総合農地防災対策事業

R5事業費：13百万円（うちふるさと納税充当額：13百万円）

農業用排水機場は、農地への浸水被害を防ぐだけでなく、農地の市街化が進んだ現在においては市街地の浸水被害の防止にも寄与しています。そのような重要な役割を併せ持つことから、運転管理費用の一部を支援しています。

令和5年度は、大下津排水機場や松林排水機場の運営を支援し、地域の浸水被害の予防に取り組みました。



大下津排水機場（伏見区）のポンプ設備（左）と点検作業の様子（右）

水素・電気自動車等の次世代自動車普及促進事業

R5事業費：12百万円（うちふるさと納税充当額：9百万円）

運輸部門における二酸化炭素排出量の削減に向けた対策として、電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド車（PHV）、燃料電池自動車（FCV）等の次世代自動車等の普及促進や体験型水素学習事業、マンション等へのEV充電設備普及に向けたモデル構築事業を実施したほか、燃費が向上する運転方法であるエコドライブの普及拡大に向けて市内自動車教習所におけるエコドライブ研修などを行いました。



次世代自動車の給電機能を活用した知恩院三門のライトアップ（左）と
マンションへのEV充電設備導入に向けた無料相談会（右）

生物多様性の保全

R5事業費：6百万円（うちふるさと納税充当額：6百万円）

「自然共生社会」を実現するため、令和3年3月に策定した「京都市生物多様性プラン（2021-2030）」に基づき、生物多様性の保全と持続可能な利用の取組を推進しています。

生物多様性の課題解決を図る「推進プロジェクト」をはじめ、京都らしさを支えてきた生きものの保全、再生及び持続可能な利用の取組を実施する方を認定する「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」など、多様な主体の皆様を巻き込む取組を実施しています。



東山における自然観察会（推進プロジェクト）（左）と市民の皆様との協働による
生物多様性に配慮した庭づくり（京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度）（右）

美しい景観・安心安全のまちづくり

歴史的町並み再生事業

R5事業費：98百万円（うちふるさと納税充当額：49百万円）

歴史的な町並みの保全・再生を図るため、景観重要建造物や歴史的風致形成建造物をはじめとする歴史的建造物の修理・修景に係る経費の一部に対し、補助を実施しました。

【令和5年度助成実績】

- ・景観重要建造物 20件
- ・歴史的風致形成建造物 13件
- ・上記以外（指定地区内建造物等）10件

修理前



修理後



【景観重要建造物の助成制度の活用による修理・修景事例】

京町家保全・継承推進事業

R5事業費：59百万円（うちふるさと納税充当額：40百万円）

京都らしい町並み景観及び生活文化の象徴であり、魅力あるまちづくりの資源として、市民の貴重な財産である京町家の保全・継承を図る取組を推進しています。

その取組の一つとして、京都市京町家の保全及び継承に関する条例に基づく個別指定や指定地区内の京町家の保全・継承に必要となる大規模改修や維持修繕の工事に要する費用への支援等を行いました。

【補助制度を活用した改修事例】

改修前



改修後



消防活動機材の整備

R5事業費：182百万円（うちふるさと納税充当額：5百万円）

京都市消防局では、火災、救助のほか、激甚・頻発化する自然災害など、あらゆる災害から市民の命と暮らしを守るために、日夜、取り組んでいます。

令和5年度は、消防活動に必要となる、エンジンカッター、救助ロープ、消防用ドローンなどの消防機材を整備しました。



消防団員被服の整備

R5事業費：33百万円（うちふるさと納税充当額：9百万円）

京都市消防団は、「自分たちのまちは自分たちで守る」という志のもと、火災や水災などの災害時における警戒防御活動のほか、平時における市民へのきめ細かな防火・防災活動など、昼夜を問わず活動しています。

令和5年度は、消防団活動に必要となる消防団員の制服や活動服などを整備しました。



京都の行政区・地域プロジェクトを応援

持続可能なまちづくり支援事業

R5事業費：132百万円（うちふるさと納税充当額：67百万円）

区民による地域課題の解決や「自分たちのまちは、自分たちでつくっていく」という地域のまちづくりを、区役所がしっかりと支えていくため、「持続可能なまちづくり支援事業」を実施しました。

(実施事業の一例)

○ 学区まちづくりビジョンの策定支援（北区）○ 上京ふれあいネット「カミング」運営事業（上京区）○ 災害に強い左京区づくり事業（左京区）○ 京都みつばちガーデン推進プロジェクト事業（中京区）○ 住んでこそ！東山プロジェクト（東山区）○ やましなっこ育ち・学び応援事業（山科区）○ 京の伝統文化体験フェスタ in 下京（下京区）○ 下京・南まちなかアート（下京区、南区）○ 右京の魅力発信事業（右京区）○ 西京区の魅力と文化の発信（西京区）○ 伏見地域の経済・観光振興（伏見区）

西陣を中心とした地域の活性化

R5事業費：4百万円（うちふるさと納税充当額：3百万円）

平成31年1月に「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」を策定して以降、地域に関わる幅広い主体の協働のもと、地域が有する多彩な魅力・資源をいかした活性化の取組を推進しています。令和5年度は、民間提案による活性化プロジェクトを中心とした連携事業を実施するとともに、ポータルサイト「にしZINE」等での情報発信などに取り組みました。



「西陣ピック！～ものづくり体験&まるごとマルシェ～」の開催の様子（左）とポータルサイト「にしZINE」での情報発信（右）

京都の大学・学生の活動を応援

ふるさと納税を活用した大学における地域連携等推進事業

R5事業費：20百万円（うちふるさと納税充当額：20百万円）

「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上に向け、市内24大学の実施する地域社会・企業との連携強化や、生涯学習講座など人材育成に関する取組、学生支援等に対して、補助を実施しました。



京都女子大学で開催された生涯学習講座の様子

留学生スタディ京都ネットワーク

R5事業費：14百万円（うちふるさと納税充当額：10百万円）

「大学のまち・学生のまち京都」の活性化につなげるため、平成27年に産学官が連携し設立した「留学生スタディ京都ネットワーク」を通じ、留学生の誘致、就職・進学支援等の取組を推進しています。令和5年度は、国内外の留学フェアにおける京都留学に関する情報発信や、キャリア形成のための日本語講座を実施しました。



留学生誘致フェア（左）とキャリア形成のための日本語講座（右）

まぢピンチ 京都の市バス・地下鉄を応援

市バスのフルカラーLED 式行先表示器の導入

R5 事業費：34 百万円（うちふるさと納税充当額：17 百万円）

全てのお客様に対して分かりやすさの向上を図るため、市バスのフルカラーLED 式行先表示器の導入を進めました。従来の方向幕式では、表示内容が99種類までに限られていましたが、フルカラーLED 式では約1000種類の表示が可能となり、臨時便への柔軟な対応や表示内容の幅を拡げることが可能になりました。

【フルカラーLED 式行先表示器の導入】



烏丸線行先案内表示設備の更新・新設

R5 事業費：348 百万円（うちふるさと納税充当額：20 百万円）

烏丸線国際会館駅、松ヶ崎駅、北山駅、北大路駅、鞍馬口駅、今出川駅、丸太町駅及び竹田駅の列車案内表示器を更新及び新設（竹田駅改札階を除く）し、4か国語表示、先発次発の表示及び発車時刻の表示が可能になりました。

また、ユニバーサルデザインフォントや色覚異常の利用者にも配慮した色の組み合わせを用いることで、全てのお客様に分かりやすい案内表示となりました。

【ホーム階の案内表示（更新）】



【改札階の案内表示（新設）】



「日本遺産・琵琶湖疏水」の魅力創造事業

「日本遺産・琵琶湖疏水」の魅力創造事業

R5事業費：303百万円（うちふるさと納税充当額：21百万円）

びわ湖疏水船の運航主体である「琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会」に参画する民間企業、観光協会、商工会議所、行政機関などと連携し、びわ湖疏水船の航路延伸PRや親子乗船会などを実施し、琵琶湖疏水の魅力向上や情報発信に取り組みました。



令和5年秋季親子乗船会の様子